

Bibliophiles

ビブリオフィルス No. 4(2017年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『フランスはどう少子化を克服したか』 高崎順子

一人の女性が一生のうちに出産する子供の平均数(合計特殊出生率)が、日本の1.45人に対してフランスは2.01人。この原因を分析していくと、日仏の「子育て」に対する考え方の違いが見えてきます。筆者はフランスで子育てを経験したのですが、3歳で「保育園」ではなく「保育学校」に全員入学するので、3歳以上の「待機児童」という現象はフランスにはありません。ほかにも、日本の子育て事情を知っているなら驚きの連続の内容で、みなさんも将来のためにも是非一読をお勧めします。

『素敵な日本人』 東野圭吾

おなじみの人気作家の最新作は、ヴァラエティに富んだ短編集で、「高齢出産のための卵子の凍結保存」といった現代的なテーマを扱ったり、「えべっさんの福男」といった西宮に関連した作品もあります。ほろ苦いブラック・ユーモアの漂う独特な短編集ですが、市立図書館では人気で、ただ今借りにくい状況です。

『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』 川上和人

鳥はエサを丸飲みにし、なおかつ食べてから排泄までにたった1時間しかかけません。(飛ぶための軽量化作戦だそうです。)そこで筆者がメジロとヒヨドリを使って実験したところ、何と15%ものカタツムリが、鳥に飲み込まれても生きてまま排泄されていることがわかりました。このように、鳥に関する興味深い話を、ジョークを交えながらの軽妙な語り口で聞かせてくれます。

『テレビでは言えない大相撲観戦の極意』 舞の海秀平

日本出身力士としては19年ぶりの横綱となる稀勢の里人気により、春場所の前売り券が即日完売したことがニュースになっていましたね。このように、世間の相撲への関心が高まっています。本書は元力士で現在はNHK相撲解説者として人気の舞の海氏のエッセイ集。「力士の年収」や「相撲部屋の実態」といった相撲の裏事情から、相撲観戦を楽しむ秘訣など、元力士ならではの視点から興味の尽きない話を繰り広げます。

『スタンフォード式 最高の睡眠』

西野精治

皆さんは、夜はぐっすり眠れていますか。眠れていない人は「世界の睡眠研究は、スタンフォードから始まった。」と誇らしげに語る米・スタンフォード大学教授によるこの本を読めば、睡眠のクオリティを高められるかも知れません。例えば「就寝90分前の入浴」でぐっすり眠れるそうです。その理由は「からだの深部の体温が下がるから。」だそうです。お風呂に入ると体温って上がりますよね?それがなぜ「下がる」のか、そのワケは・・・

『すごいライトノベルが書ける本』

西谷史、榎本秋

「女神転生」シリーズで有名な西谷史とラノベ評論家・榎本秋の共作による、ライトノベルの書き方講座です。かなり真剣に、プロの作家を目指す人向けに、ストーリーの作り方や文章表現について教えてくれています。でも、あなたがもしライトノベルのプロを目指していなくても、大丈夫!この本を読めば、今まで以上に「小説の読み方」が分かって、ラノベや小説が楽しく読めますよ。

『聖徳太子 ほんとうの姿を求めて』

東野治之

聖徳太子に、皆さんはどんなイメージを抱いていますか。しかし、「聖徳太子は実在しなかった。」とする仮説も存在するのです。本書は、「聖徳太子は実在した」こと、また「自分のポリシーをもって外来文化を取り入れる、ある意味過激な知識人」であったことを、豊富な資料と共に分かり易く解説していきます。

『Musio I : 電腦メイロ』

真山碧

人工知能を搭載した英語学習ロボット「Musio (ミュージオ)」がこの3月に発売されました。(ちなみに価格は10万円ほどです)人の声紋を分析して、会話相手が誰かを認識でき、ネイティブ並みの会話が楽しめるなど、その高性能が注目されているのですが、早速これを題材とした本が出ました。実際のMusioをさらに進化させたロボットを登場人物とした小説で、「I」とあるのは三部作の一作目、という意味だそうです。主人公は、両親がなく、戸籍すらもない孤独な女子中学生・メイロ。各書店でベストセラーとなっている話題作です。



今号のひとこと

たづね問ひ辻に往(い)ぬる道は悟り得(う)とも
生まれ居(ゐ)る世を悟らざる憂(う)し

荷田春満(1669-1736)

これは一種の遊び歌です。何の遊びか、分かりますか?歌の内容としては「問い尋ねて辻に行く道は分かって、生まれてきたこの世の道を悟れないのはつらい。」という何だか哲学的なものですが、それは置いておいて。(笑)この歌には、なんと十二支の生き物全てが隠されているのです。下に答を書いておきますが、全部の生き物が見つかるか、一度チャレンジしてみてください。ちなみに、このように歌や俳句の内容に関係のないものを作品中に隠す趣向を、「隠し題」とか「ものの名」と呼びます。

答:「たつ・ね・ひつじ・いぬ・み・とり・う・うま・ゐ・とら・さる・うし」の順番に出てきます。